編輯室の内外

○本誌の發行に就いては一方ならぬ苦心して居りますが本號はやゝ發行をはやめ得たことであります。今後は尙一層意を用ゐて期日通り發行致す心構へでゐる、玉稿を寄せらるゝ諸彦は可成早や目に御送り下さる樣偏に御願ひ致します。

○在滿機構の變革で軍部側と文官側との間に意思の疎隔を來たし軍部側では聲明書を發表したり文官側では總辭職を揚言したり物議騷然たるの狀勢を呈した、果して文官側の總辭職が結果つけらるゝか、軍部側の强行が奏効するか、時節到來を俟つの外はない、下剋上か上剋下か夫れはともかく畢竟此問題の核心は相當深い所に在る、其主訴は軍政を全滿に繼續すべきか否であるが其病根は國家革新主義派と非革新主義派の顯現であるとも見られ又ミリタリスム派と非ミリタリスム派との對立だとも見られて居る、實に在滿機關問題は警察部長を憲兵司令に兼務さすか否とか警察の憲兵化とか否とかの表面的問題ではないのである、我國政界に取つては甚だ關心すべき事件であつて設令一旦沈靜の狀態となつても根本的解決を爲さなければ病患は更らに亢進するであらうと思はるゝ寒心事である。國民一般に注意を怠つてはならない事である。

○陸軍省で公表したパンフレット特に「國防の本義と其强化の提唱」に關しては世評騷然たることとなつた、夫れも其筈である單に國防問題の範圍内に止まるならば左程の問題ともならず否寧ろ擧國其言に聽く所であつたであらうが其記述する所が「戰爭の定義」とも思はる意見乃至思想及經濟を論ずる所があるので如何に聰明叡智を集めたと言はるる軍部でも聊か其職分を超越したりと思はしめた結果が世論を惹起したのであらう、分度推讓を恪守することが大切な事ではなからうか、以て他山の石とすべきである。

○後藤内相と共に現岡田内閣の組織に際し全心全力を捧げて努力したと見られて居る河田烈氏は病氣の故を以て内閣書記官長を辭せられた、在滿機關問題の如き難件も時に病勢を惡化したことであらう、氣の毒の至である、其後任は内務省の社會局長官から協調會理事長となられた吉田茂氏が任命せられた筆者は同氏の自愛を祈るものである。

○本年度中の風水害に關する災害復舊土木事業費は全國二府三十一縣に渉りて其關係府縣の要求額は實に九千六百萬圓の巨額に上つて居る、以て其被害の如何に甚大なるかを想像し得る、今や星寒徐ろに襲ひ來るの時節そゞろに被害地住民の窮乏に同情を禁じ得ないものである、更らに東北地方凶作の狀況を詳かにするに於て是又其深刻なるに同情せざるを得ないものである。

（一〇、二八、洗民）

定價一部 五十錢
一ヶ年分 金六圓

東京市麴町區外機田町一番地内務省内
發行所 社團法人 道路改良會
電話銀座(57)四二七
東京市世田ヶ谷區北澤五丁目七五二
發行兼編輯者 小島效
東京市小石川區諏訪町五六
印刷所 常磐印刷所
印刷者 堀江關武